令和８年度 妙円寺小学校だより
妙なる絆（たえなるきずな）
11月
児童数418人　職員39人　ＴＥＬ273－1822　令和８年11月16日 発行

☆妙円寺小公式ＨＰもよろしくお願いします。 http://www.ed.city.hioki.kagoshima.jp/～myoenji/

『一つの花』を読み解く

校長　有村　恵

コスモスの季節が終わりを告げようとしています。秋風に吹かれて、右に左に揺れ、秋を代表する花です。漢字で書くと秋桜。まさに、可憐という言葉がぴったりの花です。さて、この時期になると、４年生の国語の教科書に載っている今西祐行作の『一つの花』を思い出します。少し記憶を呼び覚ますために、あらすじを振り返ってみましょう。

幼いゆみ子は、お父さんとお母さんとの三人家族。ゆみ子はまだ片言しか喋れない女の子だった。そんなゆみ子の口癖は「一つだけ、一つだけちょうだい」だった。しかし今は戦時中。戦況は悪化の一途を辿り続け、日々ひもじい生活を強いられていた。それでもお母さんはゆみ子のために、自分の分を分け与えていたので、いつのまにか「一つだけ」が口癖になってしまった。お父さんは、ゆみ子を不憫に思った。「一つだけの幸せ」、でもこの子が大きくなる頃にはその幸せさえなくなってしまうかもしれないと……。
敗色が濃くなる中、体が弱いお父さんの下にも召集令状が届く。出征するお父さんを見送りに、お母さんとゆみ子がついていく。駅には他にも出征する人がいるようで、時折軍歌が聞こえてくる。プラットフォームでゆみ子を抱いたお父さんは、軍歌を歌いながら気丈に振る舞う。何も知らないゆみ子は、お父さんにも「一つだけちょうだい」と言ってしまう。困ったお父さんは、プラットフォームの端っこで咲いていた一輪の花を取ると、それをゆみ子に渡した。その花はコスモスだった。「ゆみ。さぁ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだよ。」コスモスの花を受け取ったゆみ子。それがお父さんとの最後のやり取りだった。お父さんは汽車に乗り込み、そして帰ってくる事は無かった。
10年後、ゆみ子の家の周りには沢山のコスモスが咲き誇っていた。ゆみ子はお昼の食事の買い物にスキップしながら出かけていった。

この作品を通して、子供たちは文学作品の読み取りについて学んでいきます。文学作品は、叙述に沿って想像しながら、読み取ることが求められます。(以下原文のまま)
例えば、**「プラットホームのはしっぽの、ごみすて場のような所に、わすれられたようにさいていた」**から、食べるものにも困る当時の人にとってコスモスは忘れられたような存在だったのかもしれません。でも、そんな過酷な状況下でもたくましく、美しい花をつけていたコスモスのように気高く・たくましい姿に重ねつつ、立派に生き抜いてほしいというゆみ子の父親の思いを表しています。
次に、**「あわてて帰ってきたお父さんの手には、一輪のコスモスの花がありました。」「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。」**から、なぜ、群生しているたくさんのコスモスをあげなかったのでしょうか。おそらく、お父さんは、たくさん咲いていた中から、敢えて一つだけを取って、「一つだけあげよう。」と言ったと思います。さらに、**「一つだけのお花、大事にするんだよう－。」**から、私は、お父さんが「一つの花」を「ゆみ子の一つの命」と重ね「大事にするんだよう」と言いながら、渡したと捉える読み方がよいのではないかと考えます。
しかし、文中には「花＝命」ということを直接示す言葉がありません。したがって子供はかなりの想像力を働かせないとたどり着きにくいです。戦時下で“これが最後になるかもしれない別れ”をしている場面であれば、「父親」が家族に対して思うことは、「何とかして生き延びてほしい。」であることは間違いないでしょう。
このように考えると、物語を流れる「一つだけ」という言葉が、“高い高い”をする２場面で提示される「ゆみ子の将来に対する不安」から続くゆみ子へのお父さんの思いが結びついたことになります。
「コスモスのようにたくましく生き延びてくれ」という思いと同時に、「自分も生き抜きたい」という思いもあったことでしょう。そして、お母さんの身も案じていたことと思います。
秋の夜長。文学作品を読みながら豊かに想像を広げ、心豊かで、満ち足りた穏やかな時を過ごすことができたらと思っています。

第43回大運動会が盛大に行われました!

雲一つない秋晴れの下、第43回大運動会が10月31日に行われました。２学期になり、先生方と一緒に考えながら、子供たちは練習を重ねてきました。１年生は、かけっこで最後まで走り抜きました。２年生は、俵を上手に運ぶことができました。３年生は学級みんなで声を掛け合い玉入れをがんばりました。４年生は短距離走で力強い走りを見せてくれました。５年生は息を合わせて力強く綱引きをがんばりました。６年生はソーラン節で華麗な舞を見せてくれました。保護者の皆さん、地域の皆さん、温かい声援ありがとうございました。






受賞おめでとう!

県小学校社会科作品コンクール
　佳作　５年　東　桜太朗　４年　福山　葉月
県理科研究記録
　入選　５年　桑代　乙葉　４年　谷口　諒真
　　４年　橋本　啓介
第77回県図画作品展日置市審査会
　特選　４年　古市 結乃祐　６年　坪副　莉希
日置市防火ポスターコンクール
　金賞　４年　古市　結乃祐
　銀賞　２年　西須　喜一
　佳作　６年　森永　つぐみ
ＪＡ共済作品コンクール
　書道の部　金賞　１年　岡山　竜雅
日置市民推薦図書200冊読破
　６年　田島　幹太　４年　古市　結乃祐
　２年　本鍋田　泰河



第17回「税に関する絵はがきコンクール」
　最優秀賞　６年　鬼塚　澄音
第19回南日本ジュニア美術展
　特　選　２年　大久保　芳之助
税に関する作品コンクール　習字の部
　優秀賞　５年　長野　葵彩　２年　阿多　柊亮
　　１年　野間　咲茉
第63回南日本硬筆展
　鹿児島市教委育委員会賞　２年　岡元 陽茉里
　南日本書道会賞　３年　新村　柚乃
第69回児童生徒作文コンクール日置市審査会
　特　選　６年　脇　乃ノ華　下山　以知乃
　　５年　茶屋道　大文　３年　稲葉　千彩音
　　２年　原　麻綾　１年　古市　紬晴
地域が育む「かごしまの教育」県民週間　標語
　入　選　３年　増田　こころ



10・11月の教育活動




芸術鑑賞会では神村学園吹奏楽部が来てくれました。大迫力の演奏で児童は圧倒されました。真剣な表情や表現力は児童にとってもよいお手本になったと思います。





今回のサイエンスクラブは、鹿児島空港の見学を行いました。普段見ることができない場所を見学し、大変勉強になりました。

12月

７日(月)～11日(金) 臨時校時５時間

３日(木)　学級PTA　持久走大会
　　ＰＴＡ教育講演会
４日(金)　ＡＬＴ５・６年
10日(木)　人権教室４年
16日(水)　ＡＬＴ２・４年
24日(木)　終業式　大掃除
　　(12／25～１／７冬季休業)
28日(月)　仕事納め

１/８(金)　３学期始業式

